

通学区域見直しに係る大門七区住民アンケート結果

平成 30 年 2 月 5 日

塩尻市教育委員会

1 実施概要

- (1) 実施時期 平成 29 年 12 月 25 日～平成 30 年 1 月 19 日
- (2) 発送件数 1,538 世帯
- (3) 回答件数 488 世帯
- (4) 回答率 31.7%

2 結果概要

問 1 お住まいの地域はどちらですか。

- (1) 国道 19 号の北側地域 185 世帯 38%
- (2) 国道 19 号の南側地域 302 世帯 62%

問 2 世帯の状況について教えてください。

- (1) 小学校入学前の子どもがいる世帯 68 世帯 14%
- (2) 小学生又は中学生がいる世帯 81 世帯 17%
- (3) (1)・(2) の両方の子どもがいる世帯 40 世帯 8%
- (4) 上記以外の世帯 297 世帯 61%

問 3 今回の通学区域見直し案に対する賛否についてお聞きします。

- (1) 賛成 254 世帯 53%
- (2) 反対 91 世帯 19%
- (3) どちらとも言えない 137 世帯 28%

問 4 問 3 で「賛成」と回答された方に伺います。

- (1) 見直し案 A がよい 94 世帯 38%
- (2) 見直し案 B がよい 29 世帯 12%
- (3) 見直し案 C がよい 124 世帯 50%

問 5 教育委員会の今後の研究課題の参考としてお聞きします。学校規模の適正化の観点から、通学区域見直しを行わなかった場合において、見直し区域内の希望者は、塩尻西小学校、塩尻中学校への指定校変更が可能（選択できる）となることについてはどう思われますか。

- (1) 賛成 279 世帯 59%
- (2) 反対 91 世帯 19%
- (3) どちらとも言えない 105 世帯 22%

※設問に対する、重複回答や未回答があるため、回答数が 488 世帯にならない場合があります。

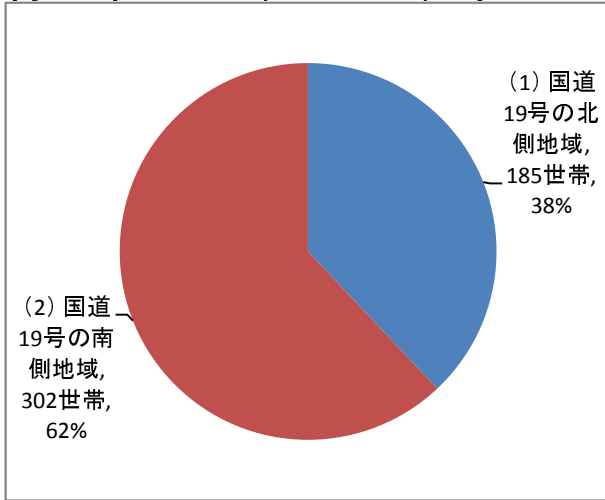
通学区域見直しに係る大門七区住民アンケート結果【グラフ】

○発送件数 1,538
 ○回答件数 488
 ○回答率 31.7%

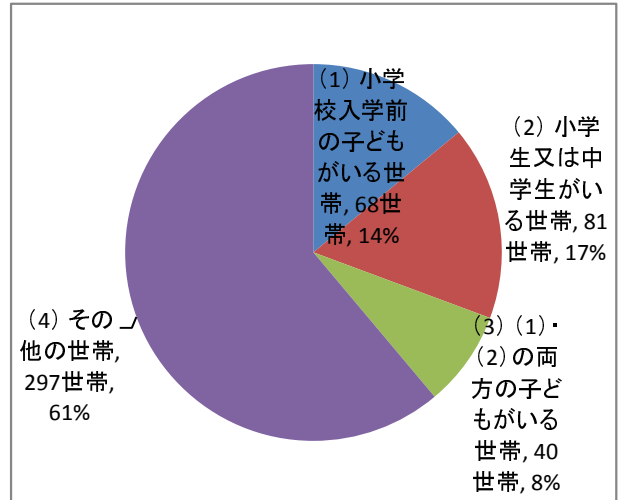
○実施時期 平成29年12月25日～平成30年1月19日
 ○実施機関 塩尻市教育委員会

※設問に対する、重複回答や未回答があるため、回答数が488世帯にならない場合があります。

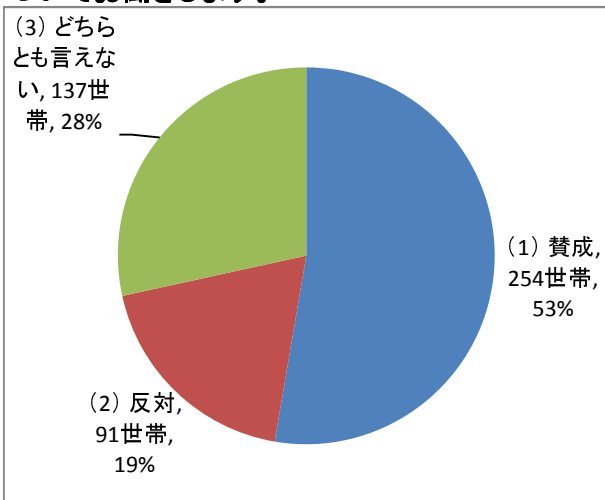
問1 お住まいの地域はどちらですか。



問2 世帯の状況について教えてください。

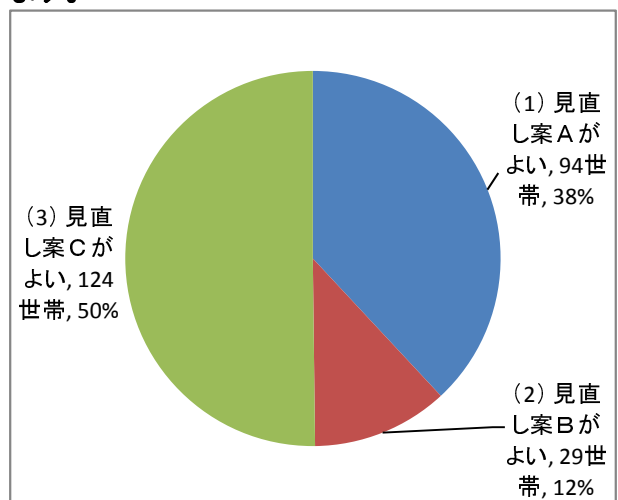


問3 今回の通学区域見直し案に対する賛否についてお聞きします。

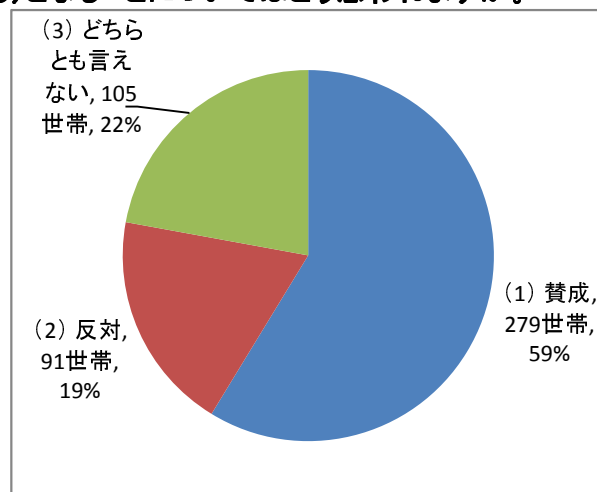


(理由の記載は別紙)

問4 問3で「(1)賛成」と回答された方にうかがいます。



問5 教育委員会の今後の研究課題の参考としてお聞きします。学校規模の適正化の観点から、通学区域見直しを行わなかった場合において、見直し区域内の希望者は、塩尻西小学校、塩尻中学校への指定校変更が可能(選択できる)となることについてはどう思われますか。

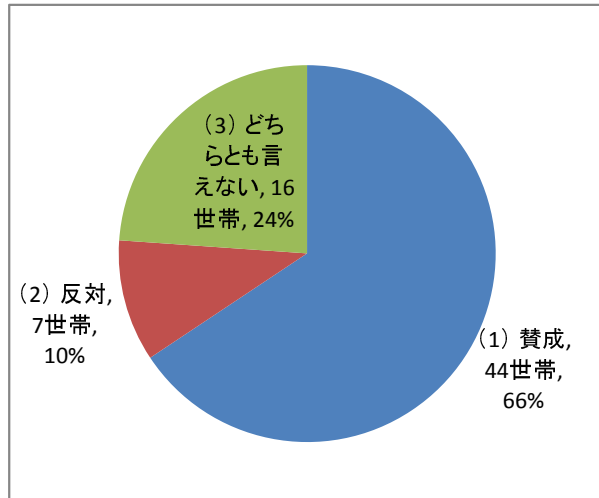


問6 その他ご意見等があれば、御記入ください。(別紙)

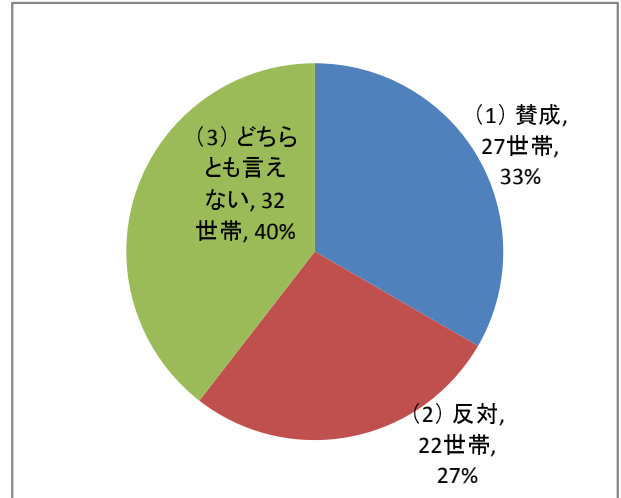
世帯構成別の詳細

アンケート問3の賛否の世帯構成別の内訳及び世帯構成別のアンケート回答率は次のとおりです。

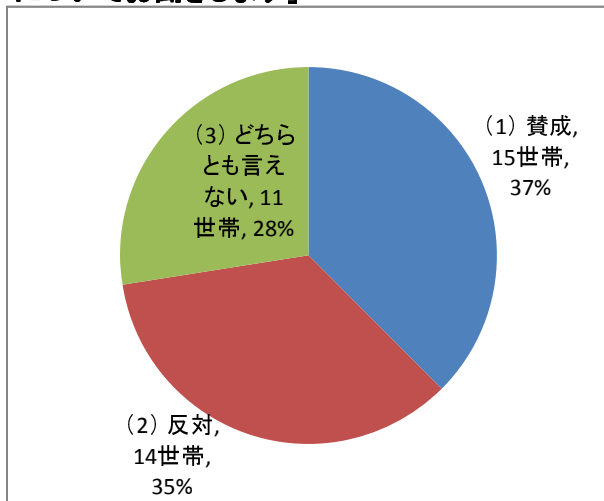
①小学校入学前の子どもがいる世帯 「今回の通学区域見直し案に対する賛否についてお聞きします」



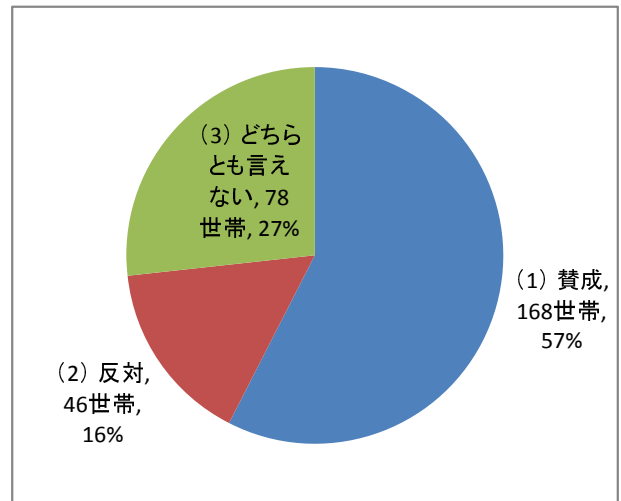
②小学生又は中学生がいる世帯 「今回の通学区域見直し案に対する賛否についてお聞きします」



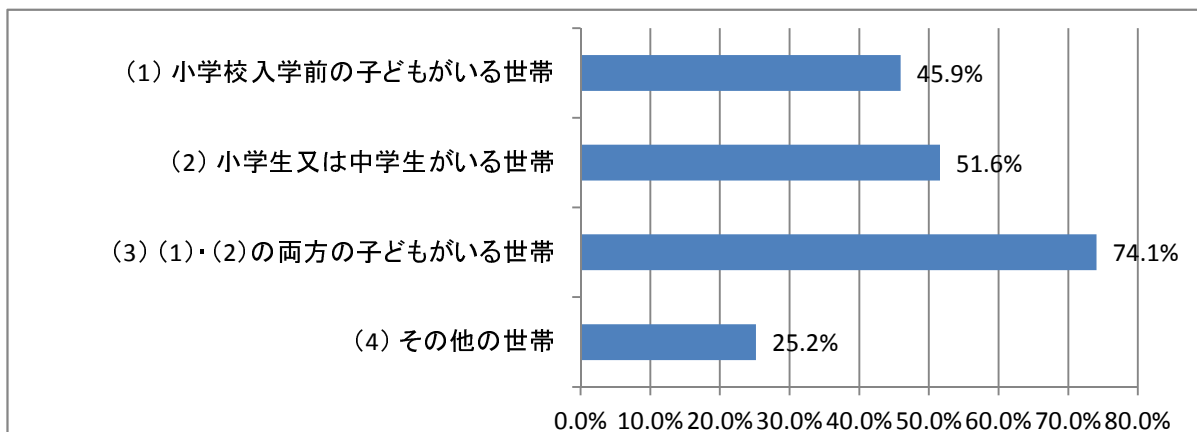
③小学校入学前の子どもと小・中学生の両方の子どもがいる世帯 「今回の通学区域見直し案に対する賛否についてお聞きします」



④ その他の世帯(①②③以外の世帯) 「今回の通学区域見直し案に対する賛否についてお聞きします」



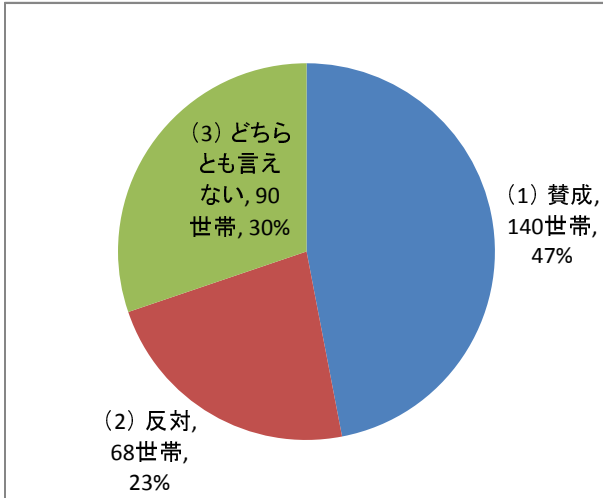
⑤世帯構成別回答率 全体の回答率は31.7%ですが、世帯構成別の回答率は次のとおりです。



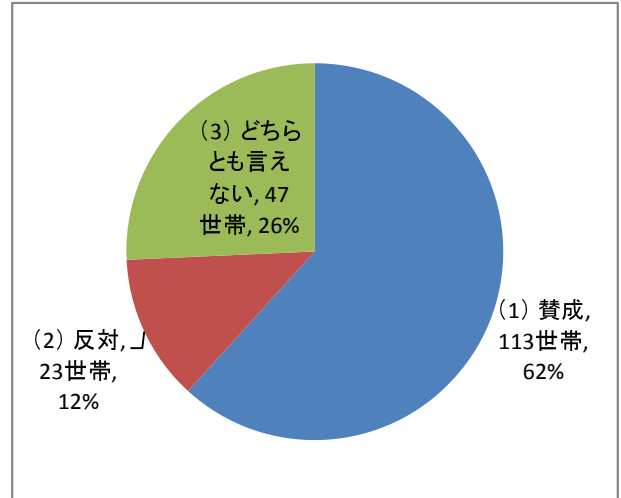
地域別回答内訳及びA～C案の回答内訳

アンケート問3の賛否の地域別の内訳及び見直し案A～Cに賛成の世帯の世帯構成内訳は次のとおりです。

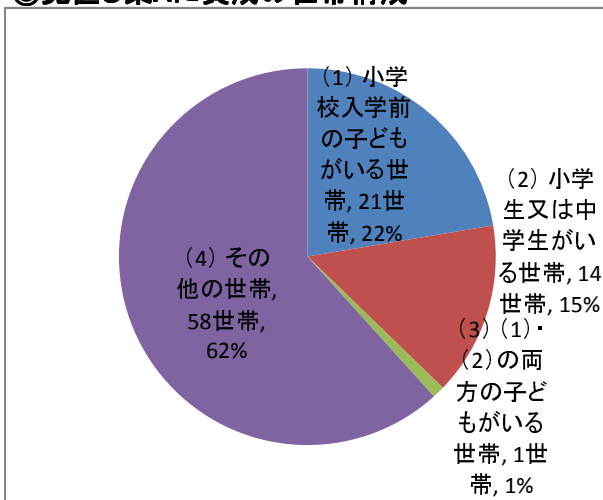
⑥国道南側に住む世帯の回答 「今回の通学区域見直し案に対する賛否についてお聞きします」



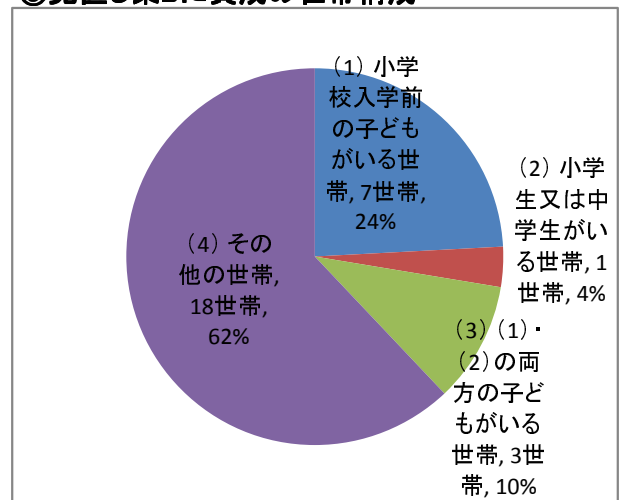
⑦国道北側に住む世帯の回答 「今回の通学区域見直し案に対する賛否についてお聞きします」



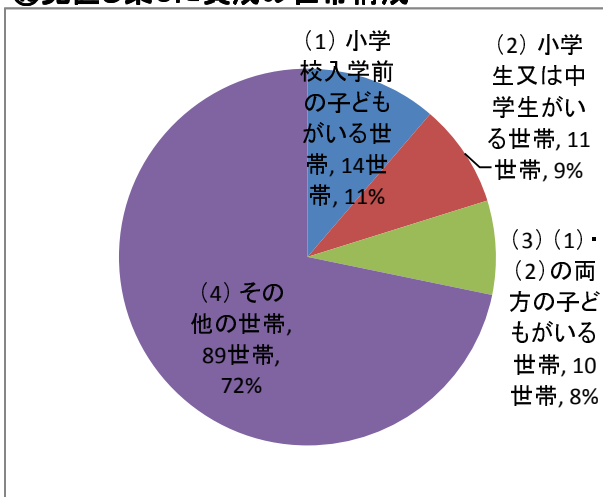
⑧見直し案Aに賛成の世帯構成



⑨見直し案Bに賛成の世帯構成



⑩見直し案Cに賛成の世帯構成



通学区域見直しに係る大門七区住民アンケート結果

平成 30 年 2 月 5 日
塩尻市教育委員会

問 3 の回答（その理由）概要

(1) 賛成

- ・ 児童生徒は順応性が高い、国道 19 号は低学年児童には事故も多く危険である
- ・ 学校規模での不都合が生じることを避ける、プレハブ教室での授業はできればさせたくない
- ・ 今後、児童生徒数の増加が予想されるのなら、前向きに考える必要がある
- ・ 人口動向対応のため仕方がないが、大門商店街の融通の悪さも問題
- ・ 子どもたちの学びやすい環境をつくるのが大人の使命だと思う
- ・ 桔梗小学校や塩尻西小学校は、通学距離もさほど変わらず、国道を横断しなくてもよい
- ・ 施設の有効活用と行政コスト削減のため必要な措置と考える
- ・ 全面的に賛成はできないが、学校施設の現状や市の財政を考えると見直しも仕方がない
- ・ 自分の子どもも途中で広陵中学校に移ったが、何の支障も無く通学できた
- ・ 通学安全、適正規模、通学距離等を考えると早急に行うべきである
- ・ 区域の見直しは理解できるが、塩尻駅西側の子どもたちの通学路に不安を感じる
- ・ 既存の学校施設を有効活用して改修費用をおさえることが望ましい
- ・ できるだけ早い時期に実施するほうがよいと思う
- ・ すでに卒業した子のときに、塩尻西小学校、塩尻中学校との児童生徒数の格差を感じていたので、早く対応したほうがよいのではないかと思っていた
- ・ 児童数の見込みに応じた計画的な対応により、混乱や予算増を避けるために必要である
- ・ 見直しをするのであれば、はじめは希望者からでも進めていけばよいと思う
- ・ 塩尻西小学校の単級化、専科教員の減等は早めに対応しておくことがよい
- ・ 児童生徒の増加に伴う対策として合理的だと思う
- ・ 見直し区域の子どもたちにとっても、選択して良いほうに行くことができるのはよいと思う
- ・ 児童生徒数が増える予測から、あるいは増えてから見直しを行うのだから、反対、曖昧はできない
- ・ 当事者（子ども）には、そのときは気の毒と思うが、良い点もある、自分自身も小学生のときに 2 つに分かれたが、今ではいい思い出となっている
- ・ 時代の流れにあわせ、フレキシブルに対応すべきである
- ・ 現在、小中学校に在学中の子どもに影響がないのであれば変更してもよいと思う

(2) 反対

- ・現状で何年も経過しているため、各々先輩が誕生しており、変更した場合、思い出が変わってしまう
- ・大門七区内に、2校のPTAは、公民館行事等を考慮するとよくない
- ・過去において、塩尻西小学校から桔梗小学校へ追い出された思いが残っている
- ・塩尻西小学校は、いずれ廃校とし、桔梗小学校への併合がよいと思う
- ・塩尻中学校の場合、通学距離が遠く、交通安全上危険である
- ・これから家を建てたり、子どもが幼児なら、その覚悟（前提）で行えて問題ないと思う
- ・一番問題に考えることは、現在の桔梗小学校の児童が少人数で塩尻中学校に行くことなので、C案がある限り賛成とは言えない（C案が消えたら賛成できる）
- ・塩尻駅西側地域から塩尻中学校は遠すぎる、通学が困難である
- ・桔梗小学校が手狭になったので、塩尻西小学校に行くようにというのは行政の身勝手と言わざるを得ない、子どもたちのことを中心に考えてほしい
- ・塩尻駅西側地域は、駅下ガードなどが通学路となると安全面等心配である
- ・小学校は距離的に変わらないのでいいが、中学校は2倍の通学時間になる
- ・C案になったとしたら、なぜ、遠い中学校へ通わなければならないのか納得できない
- ・家を建てるときに、通学区は親として一番に考えることなのに、そのことを無視するような急な発表にとっても戸惑いを感じる
- ・「子育てしやすい市」をめざすならば、もう一度、急に学校を変えなければならない子どもの気持ちを考えてほしい
- ・今後、子どもの数が増え続けるとは考えにくいいため、数年の間の増加であれば、現状のまま対策を講じたほうがよいと思う、住宅地などの都市計画を慎重に行ってほしいと思う
- ・児童生徒数により、学区の考察が優先されることは、子育てする世帯において、安心して通学させることと結びつかない、学区は通学時間や安全性を優先させる必要がある
- ・大門七区国道南側の少数の子どもを動かしても何の解決にもならない、アパートの多いこのエリアを動かしても意味がない
- ・今まで同一地区として活動している地区PTA役員の問題などで混乱を招く、市としてフォローできるのか、保護者に丸投げは迷惑である
- ・限定された地域だけの見直し案では、教室数不足の問題が解消できない
- ・区画整理による人口増は、10年～20年かかり、一時的な問題だと思うので、できれば、プレハブ教室対応を願う
- ・国道19号南側で塩尻駅東側地域を塩尻西小学校とする（変更区分への提案）
- ・懇談会、審議会での話し合いが全く反映されていない、アンケート資料としては大幅に情報が不足しており、懇談会に出席していない住民には意味がわからないと思う
- ・今の土地を購入する際、学区を桔梗小学校、広陵中学校にしたいと思い決めた
- ・コミュニティ・スクールを推進しているが、通学区の分割はこの取組みの妨げとなる
- ・大門七区の将来のあり方と平行して検討すべきである

(3) どちらとも言えない

- ・対象児童生徒がいないため、現実を踏まえて考えることができない
- ・平成 32 年度中学入学児童がいるが、正直、動きたくない、悩んでいる
- ・変更は仕方がないと思うが、子ども会の運営などに支障がでるのでは、と心配
- ・必要なのはわかるが、子ども（本人）の意志のほうが大事だと思う
- ・共通事項①について、高出地区にも見直してほしい人がいるのではないかと感じる
- ・その頃にちょうど、小学生、中学生がいる家庭の意見を尊重してほしいと思う
- ・小学校案には賛成、中学校案のうち塩尻駅西側地域は今までどおり
- ・希望どおりの学校に行けるのはよいと思うが、人数の偏り等、気になる点が多い
- ・いろんな意見があるが、国道 19 号で区切ったところで、桔梗小の児童数が減るのは一時的で、またすぐあふれてしまうと思う
- ・それぞれの家庭によって、賛成、反対の理が違うと思うが、どこかで線引きしない限り話が進まないのではないか
- ・他にも児童数が減っている小学校もあるので、市内全体で見直しをするならば仕方がないと思う
- ・学校施設の整備から考えると見直し案も理解できるが、地域の行事をどのように進めるのか課題
- ・プレハブ教室対応は、子どもがかわいそう、見直し区域の人は、どちらに行くか自分で選択できることはよいと思う
- ・通学区の見直しのみでは、塩尻西小学校の児童の減少を防げないと思う
- ・学校規模の適正化には、ある程度の見直しは必要だが、今回の案は、あまりに小手先にすぎると思える、他の学校についてもあわせて考えるべきと思う
- ・小学校の地区 P T A 役員などをしてきた経験から、同じ地区で小学校が 2 つに分散されることは、地区行事、P T A 活動など不都合だと思う
- ・生徒数が偏ることについては、対応が必要であると考えるが、希望者は選択できるという条件が曖昧で決定打に欠ける部分がある

通学区域見直しに係る大門七区住民アンケート結果

平成30年2月5日

塩尻市教育委員会

問6の回答（その他の意見等）概要

問3に「賛成」と回答した方の意見等

- ・塩尻駅西側からの道路の歩道があまり確保できていないため、学区変更に伴う整備も今後対策してほしい
- ・七区の行事は仲良く参加できるように、子どもの立場や安心を配慮してほしい
- ・優先すべきは子どもの学習環境、他に優先するものをあげれば結論は出なくなる
- ・指定校変更については、学校から最も遠い地域となる境界線付近のあらかじめ決められた自治会単位のエリアのみ可能としてはどうか
- ・大人が思うより、子どもは柔軟だと思う、活用できる校舎がすぐそばにあるのに、それを利用しないのはおかしい
- ・子どもがいる方々のご意見が可能な範囲で尊重されることを望む
- ・塩尻駅西側から塩尻西小学校へ通学することになった場合は、防犯上の観点から、塩尻駅構内を通学できるように指定することを検討してほしい
- ・通学区域を見直すことは賛成だが、希望者については、小中学校の選択を認めるべきだと思う
- ・早々に始めたほうがよいと思う、その上で課題が生じるようなことがあれば、修正していく必要がある
- ・地区の住民の声も大事ですが、子どもがどんな環境で勉強することが一番よいか、安全に登校できるかを第一に考えてほしい
- ・学校の先生方の考えや意見も大切にしてほしい、困るのは地域、子どもより学校現場だと思われる
- ・不安や反対も理解するが、市全体の教育や学校を考えたときに、今後の課題に対しての試金石になる事例であり、より未来につながる結果に導いてほしい
- ・今回の話は新聞等で知っていたが、正直、なぜもめるのかわからない、「あなたはこの小学校と中学校へ通ってください」では済まないのか
- ・大門七区の子ども会が分裂することに対する支援が必要
- ・見直し区域以外についても、希望者があれば対応してほしい

問3に「反対」と回答した方の意見等

- ・いずれどこかで、こんなことを検討しなくてはならないと思うが、児童のいじめ差別につながらないことを切に願う
- ・同じ地域内で通学校がばらばらになった場合の地域活動が成り立ちづらくなる
- ・塩尻西小学校区内の児童の増加の見込みがないのであれば、桔梗小学校、塩尻西小学校を統合し、塩尻西小学校は別の目的で使用する
- ・七区の中で、塩尻西小学校、塩尻中学校を希望する家庭については、選択できるとよいと思う
- ・学校を選択できることについては、各家庭の判断でよいと思うが、行事、活動を行う上で、まとめていくことが難しくなってしまうと思う
- ・今回の見直し案は、納得のいく説明も資料もないまま、さらに度重なるアンケートによる反対意見も重視されない状況
- ・学校を選択できることについては、各家庭での希望は尊重されるべきである
- ・桔梗小学校、広陵中学校の問題が、これから確実に解消されるように、見直しの地域をもっと広げて考えていくべきだと思う、そのひとつの案として、国道19号南側が入ることは、あり得ることだと感じる
- ・今回の見直し案が起きた最大の理由は、塩尻市行政そのもののまちづくり手法が最大の要因ではないだろうか。児童数が減少しているなら、区画整理事業を行うべきである
- ・学校の選択制はよいと思うが、見直し区域を大門七区国道19号南側だけで考えることには反対である、高出の一部地域も含めて、選択制にすべきだと思う
- ・住宅を新築して転入してきた者にとっては、前提として考えていた進学ルートが変わることになるため、緩和措置として移行期間を設け、その間は選択できるようにすべきと考える
- ・大門七区区政としては、東西に分かれて運営されているので、南北にすると四分割され、区政がやりにくくなる

問3に「どちらとも言えない」と回答した方の意見等

- ・大門だけを動かすのではなく、市内全体の通学区域見直しをしてほしい
- ・国道19号の南北で地区を分けてもよいと思う
- ・塩尻駅西側から塩尻中学校への通学は時間がかかりすぎる
- ・学校を選択できることについては賛成だが、見直し区域内の8割の児童が、桔梗小学校、広陵中学校希望であったらどうにもならない気がする
- ・プレハブ教室が必要となった場合は、空調設備等を整え、学業に支障とならないように配慮いただきたい
- ・現在、桔梗小学校で恵まれた環境にいて勉強できている、同じように塩尻西小学校で変わらずできるのであれば、変更してもよいが、聞くかぎり移動させたくないのが本音である
- ・学校を選択できることについては、希望があるのであれば、すぐにでも行けたらよいと思う
- ・現在の見直し案では、とりあえずは解決になると思うが、長い目で見た場合、もう少し範囲を広げたほうが根本的な解決になるのではないか
- ・七区の中にも塩尻西小学校に通わせたいという人もいるのも事実であるため、選択できるようなことも考えてもらえたらと思う
- ・同時に大門七区の分区のことも考えていくべきと思う、大門地区の空き家対策など、人口増加につながるようなことができればと思う